



ボンクリ・フェス2022

“Born Creative” Festival 2022
アーティストック・ディレクター：藤倉大



©Alf Solbakken

今生まれゆく同時代の音楽を遊ぶ

6年目を迎える“新しい音の祭典”。
今、起きていることを面白がり、新しい音を響かせる。



photo: 2/FaithCompany

スペシャル・コンサート(2021年)
大友良英 / Blues Mirai (世界初演)

Born Creative=ボーン・クリエイティブ(“人は生まれながらにして、創造的”の意味)を冠したボンクリ・フェスは作曲家 藤倉大をアーティストック・ディレクターとし、今生まれゆく同時代の音楽を誰もが楽しめるお祭りです。「世界中の新しい音が聴けるフェス」と銘打っているだけに、多くの人々にとって、見たことも聴いたこともない、実験的な作品ばかりが上演されます。お客様によっては、「これって音楽?!」と驚かれる方もいるでしょう。ボンクリのテーマに共感し、集まったアーティストたちの発想は、ビー玉をピアノの中に投げ入れる作品を演奏したいとか、ロンドンと日本で同時中継合奏をしたいなど、好奇心と自由な精神に満ちています。

ボンクリの音楽は様々な文化が入り混じる世界の姿を表していると思います。インターネットを介せば、世界と容易につながれるようになった今。民族音楽もヒップホップ、ジャズ、クラシック音楽など、あらゆるジャンルの音楽がつながり、交流が活発になりました。ボンクリに登場するアーティストたちはそのようなイン

ターカルチュラルな背景の中で、オリジナリティ溢れる新しい音楽を生み出している方々です。

ノルウェーの即興音楽祭「PUNKT」をプロデュースするヤン・バングやエリック・オノレは、「Live Remix」という独自の手法を用いて、ジャズの新しい地平を見せてくれます。ハイパー箏奏者の八木美知依はエリオット・シャープやジム・オルークなどの世界の音楽家とつながり、伝統楽器でもある箏の新しい可能性を拓く第一人者です。アン・ランツィロッチィはニューヨークにあるEMPAC(実験メディア・舞台芸術センター)の音楽キュレーター兼ヴィオラ奏者、作曲家として、多彩な活動をするアーティスト。今回は自身のルーツであるハワイの伝統的な航海術を主題にしたヴィオラ協奏曲(藤倉大作曲)を演奏する予定です。その他、響きの豊かなコンサートホールでのコンサートから小規模な空間でのミニコンサートや参加型ワークショップまで、多種多様な企画をお楽しみいただけます。

しかし、聴いたことがない音楽に対して、難しさや馴染みのなさから敬遠される方も多いと

思います。そのような方々のために、安価な金額設定、45分間の短い時間のミニコンサート開催など、少しでもハードルが下がるように、いろいろな仕組みを施しています。また、様々なジャンルの音楽を“はしご”できるようなプログラムになっており、馴染みのないジャンルの音楽への最初の入り口としてもこのフェスは愉しんでいただけたらと思います。

ボンクリは、今年で6年目を迎えます。いつしか、感染症の影響により、明日の予定さえも見通せない日常が当たり前になりました。毎年、ボンクリで新作を発表してくれる大友良英の作品は本番直前のリハーサルまで、誰も作品の全貌がわかりません。当日、手書きの楽譜を渡されることもあれば、アイデアを口頭で伝えられることもあります。舞台上でできあがる音楽は、決して予定調和ではなく、その状況だからこそ生まれ得る不思議な魅力を秘めています。ひとつの答えを追い求めるのではなく、今、この場で起きていることを面白がり、受け止めてみる、そういった発想のヒントやパワーをこのフェスは持っていると思います。

文：山下直弥 (ボンクリ・フェスティバル 2022 制作)

photo: 2/faith company



photo: 2/faith company

photo: Hikaru. ☆



photo: Hikaru. ☆

7月16日(土) コンサートホール ほか館内各所

出演：アンサンブル・ノマド
アン・ランツィロッチィ(ヴィオラ)、
山下俊輔(ギター)、
八木美知依(箏) ほか
曲目：久石譲 / 揺れ動く不安と夢と球体
藤倉大 / ヴィオラ協奏曲(世界初演) ほか

詳細は4月下旬発表予定
<https://www.borncreativefestival.com/>

1	2	1. 箏の部屋(2021年)
		2. PUNKTの部屋(2019年)
3	4	3. アトリウム・コンサート(2021年)
		4. アトリウム・コンサート(2019年)